様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　25 年　６月　11 日現在

機関番号：１６１０１
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2009～2012
課題番号：２１３３０１１８
研究課題名（和文）　臨床教育のビデオエスノグラフィー：高等教育における臨床教育場面の経験的比較研究
研究課題名（英文）　Video-ethnography of practical teaching: Comparative case study in high education
研究代表者
樫田　美雄　（KASHIDA　YOSHIO）
徳島大学・大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部・准教授
研究者番号：10282295

研究成果の概要（和文）： 科学コミュニケーション論上及び実践高等教育学上の発見が各１点あった。市民からの期待の違いが、コミュニケーションスタイルの違いを生んでいた。法律相談では、弁護士からの助言は、法的適切性のみ期待されていたのに対し、 医療相談では、 医師は患者の生活面まで含めた助言を求められていた（背景は猪飼 2010:9＆227 を参照）。
　また、模擬法廷の尋問場面では、従来気づかれていなかった当事者の戦略性が発見された。

研究成果の概要（英文）：Two main findings are bellow.
The difference in the expectation from a citizen had led to the differences in communication style.
Lawyers are expected with only legal advices in the legal aid services. In medical consultations, doctors are expected with not only medical side advices but full life support advices.
And the interrogation scene of the moot court, the strategic characteristic of the party concerned which was not noticed conventionally was discovered.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	5,100,000	1,530,000	6,630,000
２０１０年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
２０１１年度	3,000,000	900,000	3,900,000
２０１２年度	2,100,000	630,000	2,730,000
総　計	14,300,000	4,290,000	18,590,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学、社会学
キーワード：エスノメソドロジー、ビデオエスノグラフィー、会話分析、高等教育、法科大学院、模擬法律相談、実践教育、コミュニケーション

１．研究開始当初の背景

２１世紀の各専門職には、高度な思考力とコミュニケーション能力に裏打ちされた、「総合的な判断分析力」と、クライエントへの「説明能力」が問われている。けれども、この新しい課題に対応するための各専門職養成に関係する高等教育の教育方略には、経験的事実による裏付けが不十分であった。たとえば、医学教育でのＰＢＬ（プロブレム・ベースド・ラーニング）のやり方が、新設された法科大学院でのＰＢＬに、そのまま流用的に応用されるようなことがなされていた。けれども、両専門職の教育には、両専門職の実務内容の違い、社会的期待の違い、さらに

は、関連する他職種との協働の行い方の違い等に基づく実践的違いがあるのではないだろうか。この問題を解くためには、まずは、高等教育における実践教育の場が、どれほど似ていてどれほど違っているのか、その実践の状況を把握する必要があるように思われた。

２．研究の目的

上述の状況を背景にして、我々の研究の基礎的方向は、 ビデオカメラでの録画とその解析を通して、「専門職の業務内容の変化」に伴って現れてきたPBL（問題基盤型教育），ロールプレー、及び模擬法廷・模擬面接などの、現場志向的で実践的な臨床教育が、実際にはどのようなものとして行われているのか、を捉えることにある。そこに、実際の人々の各専門職への期待の差異も現れてきているだろうし、学生・院生側の「一般人」理解の差異も現れてきているだろう、と考えた。

これは、一方では、知識の創造と伝達に関わっての科学コミュニケーション研究であり、もう一方では、実践的な高等教育学の探求であるということが出来よう。

３．研究の方法

研究の主要な方法は、「ビデオエスノグラフィー」である。この我々の方法は、エスノメソドロジーの緻密さに、エスノグラフィーの豊かさを加えた方法であり、高度に専門分化した領域を相互行為分析の観点から科学するやり方として、現在、最も強力な研究手法である（岡田光弘､2008 等参照）。この手法を用いることで、現場の実践に立脚した形で、社会科学的発見がなされ検証されていくことになる。

具体的には、まず、高等教育の現場の状況を複数のビデオカメラで詳細に記録取りする。ついで、現場に参与しているそれぞれの領域の専門家に「実践的推論」として何が行われているかを問う形で,直後および後日にビデオセッションを開催する。さらに、データのトランスクリプトづくりと関連資料の精査を経て、３種の教育現場（医学教育、臨床法学教育、都市工学演習）を比較することで、高等教育における「臨床教育」の現況の総体を明確化する。

４．研究成果

「法律相談」のビデオエスノグラフィーを行った成果としては、従来からの 「医療面接」 データとの対比から、 同じ専門職であっても、 市民からの期待の違いが、相談時のコミュニケーションスタイルの違いにつながっている様子がみてとれた。具体的には、法律相談の場合、専門職（弁護士） からの助言は、 それが法的に適切な助言であることのみが、 市民から期待されているようすが見て取れたのに対し、 医療相談の場合、専門職 （医師） からの助言は、 それが単に医療的に適切な助言であることだけではなく、 クライエント （患者） の生活面まで含めた全面的な問題解決にも繋がる形で適切な助言であることが、 市民から期待されており、その期待が専門家－素人コミュニケーション全体に影響を与えている様子が観察された （背景は猪飼 2010:9&227 を参照） 。

つまり、この成果を、科学コミュニケーション論に当てはめれば、知識の勾配としては、一般的には、専門家から素人への傾斜にそって、知識提供がされているといえるにしても、その具体的な様相においては、単にトップダウン的に提供知識が選ばれているのではなく、実践的には、ボトムアップ的なコミュニケーションも伴われて知識提供がされていることが、その具体的な様相込みで判明した。

なお、上記のような知識勾配に関する一般的な理解に反して、現場の知識や問題そのものに関する知識に関しては、当事者（素人）の側の方が詳しいということがある。このような「専門家－素人」関係における、「知識勾配の交差」という状況に対応して、いかなるコミュニケーションスタイルが採用されているのか、ということについては、「助け船とお節介」（串田秀也、1999)論文以来、日本でも繰り返し探求されてきているが、その臨床法学教育版の実例採集にも成功した（近日公表予定)。

ついで、 実践高等教育学からの成果について。 模擬法廷の尋問場面の分析においては、予期された展開になっていない場合の検察官役法科大学院生側の受け答えに、 コミュニケーション上の混乱が見られること， また、 犯人役側には尋問に答えないことの戦略性等が発見された。これらの特徴については、実際の法廷にも存在している特徴でありながら、従来の法学テキストには記載されておらず、ビデオエスノグラフィーによる新規の発見として、特筆出来るものである（北村隆憲, 2013 ほか)。このような発見を積み重ねていくことができるのならば、現在の法実践に関する教育よりも、さらに実践的な尋問訓練等が可能になっていくことだろう。

上記のような新規調査に基づく、新規性の高い発見のほか、比較用に 2005 年～2009 年データを見直す過程で発見された内容も興味深い。

たとえば、医学部医学科のＰＢＬチュートリアルに関して、各教室を巡回中の放射線科医師のハビトゥス（例:レントゲン写真は離して見る）が、学生に感染して、課題が達成されていく様子が観察された。つまり、ＰＢＬチュートリアルでは、知識のみが学ばれる

のではないのである。大腿骨のがんを発見するためには、写真に目を近づけるのではなく、腕を伸ばして、写真を遠くから眺める「態度」が必要なのである。このようなことの先例としては、2003 年頃の発見として、医療界で使われている慣用語（専門用語に由来する職場で使われている非公式の用語）が好んで使われていたことの発見をあげることができるが、そのよりビビッドな事例として、今回の発見を扱うことが出来るだろう。

これらの発見以外に、都市工学演習における個性的な学びの様相（例:既存の専門用語に頼らずに、感性を言語化・数値化することが推奨されていた）が見いだされたことも重要である。

すでに科研の研究期間は終了しているが、国内外の学会発表においては、一方で、プレゼンテーション技法における見劣りはあったものの（プレゼン時に、注目すべき部分を肺ライティングする形で動画編集をしたビデオクリップを上映する形が海外では主流だったが、我々は編集のほとんどない動画しか流せず見劣りした)、内容的には好意的な評価が多く寄せられた。とりわけ、非社会学分野（たとえば、臨床法学教育分野）において、評価および、研究の発展を期待する声が高かった。これらのことから、いままで以上に現場への応用を意識した形で研究を実施し、この研究を発展させていくこととしたい。

また、エスノメソドロジーおよび、ビデオエスノグラフィーの講習会を３回開催したが、いずれの場合においても、定員を超える参加申し込みがあり、我々の方法への注目の高さが明らかとなった。今後は講習会のみならず、学習用テキストづくり等にも進んでいきたいと考えている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 22 件）

①米田憲市，臨床法学教育場面のビデオ・エスノグラフィー『鹿児島大学法学論集』査読無，47-2，2013，225~269。

②岡田光弘、「法律相談」として語ること、鹿児島大学法学論集、査読無、47-2，2013，231~238。

③北村隆憲、反対尋問のビデオ・エスノグラフィー－ 弾劾と防御の方略とコミュニケーション・トラブル，鹿児島大学法学論集、査読無，47- 2，2013，239~269。

④岡田光弘，司法修習生による模擬法律相談のビデオ・エスノグラフィー－ 専門職教育におけるコミュニケーションの評価、法曹養成と臨床教育，査読無，5 号，2012、146~149。

⑤米田 憲市(他１名、1 番目)，臨床教育のビデオ・エスノグラフィー－ 高等教育における臨床教育場面の経験的比較研究－、法曹養成と臨床教育、査読無，5 号、2012、144~145.

⑥北村隆憲，誘導尋問に対する証人の「はい/いいえ」を超える返答の帰結－ 法廷尋問のミクロ分析，法曹養成と臨床教育，査読無，5 号、2012，150~155.

⑦真鍋陸太郎，都市工学演習での教員との最終ミーティングと最終発表内容との関係－グループでの実践的学習に関する分析，法曹養成と臨床教育，査読無，5 号，2012，156~162.

⑧中塚朋子，『写真』に関する質的研究の展開――『映像』／『視覚』の社会学という２つの視点から，質的心理学フォーラム，査読有，4 号，2012，74~80.

⑨樫田美雄（ほか１名、2 番目），在宅療養者と介護者の相互行為分析―ある脊椎損傷者の着替え場面に注目して―地域科学研究，査読有，2 号，2012（web 版では公開済），紙版は印刷中）
http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/bulletin/reg/reg2-1.pdf

⑩真鍋陸太郎，都市工学演習での最終発表内容と教員との最終ミーティングとの関係，大学教育ジャーナル，査読有，第 9 号，2012，11-18.

⑪五十嵐素子，学習活動をデザインするための視点―エスノメソドロジー研究の立場から，教育創造，査読無，170 号，2012，48-53.

⑫樫田美雄，中途診断というカテゴリー変化の中で生きる ― 発達障害者の中途診断経験と自己探求の社会学 ―，地域科学研究，査読有，1 号，2011，1-14.
http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/bulletin/reg/2012_1_Living%20through.pdf

⑬北村隆憲，法現象へのエスノメソドロジー・会話分析的アプローチ、東海法学、査読無、41 号、2009、227－223.

〔学会発表〕（計 26 件）

① 北村隆憲，法学臨床教育におけるビデオ・データの即時分析，第 6 回 臨床法学

教育学会,2013 年 04 月 21 日,立命館大学（京都府).

② 樫田美雄ほか,臨床教育のビデオエスノグラフィー- 法律相談ビデオエスノグラフィーの実践と理論-,第 6 回 臨床法学教育学会, 2013 年 04 月 21 日,立命館大学（京都府).

③ Takanori Kitamura, A micro-analysis of a mock deliberation under the Lay Judge System in Japan: The use of "next" positions by professional judges as an interactional resource, The Third East Asian Law & Society Conference,2013 年 03 月 22 日,Shanghai, Jiao Tong University（中華人民共和国).

④ 北村隆憲,相互行為上の資源としての「次の」発話位置における裁判官の発言- 模擬評議場面のミクロ分析,第 4 回法と言語学会大会,2012 年 12 月 15 日,明治大学（東京都）

⑤ 岡田光弘,少人数医学教育の場のビデオ・エスノグラフィー―答える権利と書く権利―, 第 85 回日本社会学会大会,2012 年 11 月 04 日,札幌学院大学（北海道).

⑥ 北村隆憲ほか,法科大学院教育における反対尋問のビデオ分析,第 85 回日本社会学会大会,2012 年 11 月 04 日,札幌学院大学（北海道）.

⑦ 樫田美雄ほか,法律相談における弁護士のアドバイスへの依頼者の拒否と抵抗,鹿児島大学大学院司法政策研究科「ロイヤリング実践セミナー」2012 年 09 月 08 日,鹿児島大学（鹿児島県).

⑧ Takanori Kitamura, An Interactional analysis of legal consultations between lawyers and clients in Japan, International Conference on Law & Society,2012 年 06 月 05 日,Hilton Hawaiian Village, Honolulu, Hawaii,（米国).

⑨ 北村隆憲,指導尋問に対する証人の「はい/いいえ」を超える返答の帰結,第 5 回 臨床法学教育学会,2012 年 04 月 22 日,青山学院大学（東京都).

⑩ 真鍋陸太郎,都市工学演習での教員との最終ミーティングと最終発表内容との関係- グループでの実践的学習に関する分析,第 5 回 臨床法学教育学会,2012 年 04 月 22 日,青山学院大学（東京都).

⑪ 米田憲市,多分野専門家との共同による臨床法学教育プログラム,第 5 回臨床法学教育学会,2012 年 04 月 22 日,青山学院大学（東京都）.

⑫ 樫田美雄,徳島における吉野川水害史から見たポスト３・１１の社会学的課題,日本社会学理論学会研究例会、2012 年 3 月 11 日、立教大学（東京都）.（招待講演）

⑬ 岡田光弘、樫田美雄,東日本大震災後のある時期のテレビ画面のヴィジュアル・コミュニケーションを読み解く,日本ヘルスコミュニケーション学会,2011 年 9 月 16 日、九州大学医学部（福岡県）.

⑭ 樫田美雄,なぜアウトカム基盤型で考えるのかー社会変容と医学教育ー,医学教育学会 2011 年 7 月 23 日,広島国際会議場（広島県）.

⑮ Motoko IGARASHI, Mitsuhiro OKADA, Yoshio KASHIDA, Ayako MIYAZAKI, Teacher's conversational devices for promoting student clinical reasoning: The case for problem-based learning, IIEMCA（国際ｴｽﾉﾒｿﾄﾞﾛｼﾞｰ会話分析学会）2011 年 7 月 14 日,フリブール大学（スイス）.

⑯ Takanori Kitamura, Change in speaking time of elderly people who require facility care when social communication from staff is increased, USM International Nursing Conference, 2011 年 6 月 14 日,"Kota Bharu Malaysia"（マレーシア）.

⑰ 北村隆憲,制度的コンサルテーションの相互行為分析-法律相談と医療面接,日本法社会学会学術大会,2011 年 5 月 7 日,東京大学（東京都）.

〔図書〕（計 2 件）

① 樫田美雄、弘文堂、いのちとライフコースの社会学,2011、288 頁,12－27.

② 藤崎和彦,樫田美雄,岡田光弘,他,篠原出版新社、医療コミュニケーション,2009,161 頁.

〔その他〕

（１） web サイト

樫田美雄,『臨床教育のビデオエスノグラフィー（新・樫田科研 基盤 B)』というサイト

を開設した。
http://kashida-yoshio.com/kasida/new_kashidakaken09/top.html
このサイトは、 科研メンバーの相互交流用のサイトとしても用いることを想定して開設したものであり、 一部にパスワード付きのファイルがあるが、 パスワードのない部分は一般向けの情報公開用の部分なので、自由に閲覧して頂きたい。

（２） 講習会（計３件）

① 樫田美雄,岡田光弘,北村隆憲,『ビデオエスノグラフィーの初歩』開催。主催：日本質的心理学会研究交流委員会,2013 年１月 26 日、徳島大学東京サテライトオフィス（東京都）.

② 川島理恵,樫田美雄ほか,『トランスクリプトづくりと会話分析の初歩』。主催：日本質的心理学会研究交流委員会,2012 年１０月 22 日、京都大学稲盛会館(京都府).

（３） 翻訳（計３件）

① 北村隆憲ほか訳,「プロフェッショナル・ヴィジョン－専門職に宿るものの見方」（ジョン・グッドウイン著)、共立女子大学文芸学科紀要、査読無し、第 56 集、2010、35－80.

② 北村隆憲ほか訳,「ラディカルな弁護士の法律事務所という現象」(マックス・トラバース著） 東海法学、査読無し、42 号,2009:122－118.

６．研究組織

(1)研究代表者
樫田　美雄（KASHIDA　YOSHIO）
徳島大学・大学院ｿｼｵ･ｱｰﾂ･ｱﾝﾄﾞ･ｻｲｴﾝｽ研究部・准教授
研究者番号：10282295

(2)研究分担者
五十嵐　素子（IGARASHI　MOTOKO）
上越教育大学・学校教育研究科（研究院）・准教授
研究者番号：70413292
宮崎　彩子（MIYAZAKI　AYAKO）
大阪医科大学・医学部・講師
研究者番号：20298772
北村　隆憲（KITAMURA　TAKANORI）
東海大学・法学部・教授
研究者番号：00234279
米田　憲市（YONEDA　KENICHI）
鹿児島大学・大学院司法政策研究科・教授
研究者番号：20283856
真鍋　陸太郎（MANABE　RIKUTARO）
東京大学・工学（系）研究科（研究院）・助教
研究者番号：30302780
阿部　智恵子（ABE CHIEKO）
石川県立看護大学・看護学部・准教授
研究者番号：80337427
岡田　光弘（OKADA MITSUHIRO）
国際基督教大学・付置研究所・準研究員
研究者番号：30619771
中塚　朋子（NAKATSUKA TOMOKO）
奈良女子大学・人間文化研究科・博士研究員
研究者番号：50457131
藤崎　和彦（FUJISAKI KAZUHIKO）
岐阜大学・医学部・教授
研究者番号：60221545

(3)連携協力者
（　）
研究者番号:

(4)研究協力者
川島理恵（KAWASHIMA MICHIE）
埼玉大学・日本学術振興会特別研究員
長谷川和代（HASEGAWA KAZUYO）
神戸女子大学・非常勤講師